出雲は、それまで日本の国を治めていた“大国主命”（国津神主宰神）が
天孫“瓊瓊杵尊”（天津神）に国を譲ったとされる、「国譲り神話」の舞台となった地と言われます
出雲へ行こう！と決めてから、なんとなく浮かんでいたのが

『八雲立つ　出雲八重垣　妻ごみに　八重垣つくる　その八重垣を』

聞いた事はあるけれど、誰のどんな歌？ということで、調べてみました
高天原を追放された素戔嗚尊（須佐之男命）が降り立ったのは、奥出雲の地でした
そこに住む恐ろしい八岐大蛇を退治し、救出した奇稲田姫（櫛名田比売）と結婚した際に
新居として選んだ場所で詠まれた歌で、古事記に出てくる、“日本最古の和歌”との事です^^
（ちなみに、素戔嗚尊と奇稲田姫の娘である須勢理毘売命の、夫となったのが大国主命とされます）
和歌のはじまりが、素戔嗚尊にあった？！とは、以外?!であり、ロマンチック^^
スサノオは、アマテラスを悩ませる乱暴者？のイメージが…（笑）
けれどスサノオは、亡くなってしまった母（イザナミ）を慕い、いつまでも、嘆き悲しんでいた…とされ
大切なもの（母性、究極の愛）を、誰よりも大切にしたのが、スサノオだった――
とも言えるのではないでしょうか？^^

今回は訪れる事ができませんでしたが、須佐之男命の御魂が鎮まるという、“須佐神社”
（奇稲田姫も共に祀られています^^）
また、その分院とされる“八雲神社”にも、是非行ってみたいと思います^^
出雲に出かける前にネットで、日本最古の天照大御神の肖像画が、八雲神社にある？！
との情報を目にし、「そうなんだ～～」と思ったのでした
八雲神社の御祭神は、“須佐之男大神”・“天照大御神”
八嶋士奴美大神・天之御中主大神・高皇産霊大神・神皇産霊大神とあり
「最古の肖像画」が真実かどうか？は分かりませんが、自身の中で“天照大御神は伊勢”と
決めつけていたことに気づきました(‘◇’)ゞ 心の壁ははずします^^

出発前日（8日）、白山比咩神社にご挨拶を！と思い、出かけました
8日は、“ほうらい祭”（金劔宮の秋季例大祭にともなって催される行列神事。金劔宮の神輿を先頭に、
邪気を払う棒振りの役目を果たす獅子方と、神への感謝を表すために作られた武者などの人形の造り物から成る
神輿渡御の行列が白山市鶴来地区〈旧鶴来町の中心地区〉を二日間掛けて練り歩く）二日目であり
白山さん駐車場でも、ハッピ姿の若衆が、棒振りと呼ばれる演舞を披露していて
威勢の良い掛け声が響き渡り、人だかりができていました
まるで、出雲へ向けての壮行会のよう^^と、ウキウキ気分で鳥居の方へと進んでいくと
何やら視線が…白山比咩大神と書かれた旗の下に、チョコンと誰か（何か）が座っています？

白山比咩大神の使者？！えらく気になるのですが、話しかけてもいいものか？
じっとみるのも失礼な気がして…　自宅へ帰って即、調べました

こちらは、ほうらい祭の陰の立役者？！

ほうらい祭りの猿面（ばくめん）

露払い役の猿田彦だと推察される、奇怪な面と奇抜な衣装で獅子の周りに出没し、子供を驚かしたり、
道化のように「棒振り」に参加したりする者のこと。修験者が持つような錫杖や、木鋤板（こすきいた•この地方の雪かき道具）
などを手にし、縄に繋がった一灯缶などの缶容器を腰から下げて、ガラガラとそれを引き摺って歩く。

露払い役の猿田彦大神？！

ちゃんとご挨拶しておくんでした･･･（笑）

さらに、出雲へのワクワクが広がっていきました！^^

島根県まで電車を利用すると、8時間以上もかかってしまうので、行きは飛行機にしました
小松から一旦羽田へ行き、乗り換えとなりますが、時間は半分に短縮できます^^

飛行機に乗るのはどれだけぶりでしょう？

最初はドキドキしましたが、二度目は超ハイテンション？！

雲の上＝地球を飛び出す心地して、**アセンション•プリーズ**！！（笑）

この時の地上（3•4次元界）は雨模様でしたが、雲を抜けると、ブルーの空に
眩しい**“太陽”**と**“UFO”**？！（8 次元以上）が現れました^^

もうすぐだよね！！

雲に覆われた荘厳な日の本の大地
神々しい、“国常立太神”御龍体が見えてきました^^

（感謝）

出雲縁結び空港へ着いて気付いた事、10月9日は出雲駅伝の日でした
出雲大社前が、出発点となっていて、通行規制が敷かれているのでは？と心配でしたが
バスは何の支障もなく、正面鳥居前まで送り届けてくれました^^
途中、道の両側に分かれて、各大学の応援団が応援合戦をしていて、ここでもお祭り?!
（自身の為ではありませんが、笑）出雲の神々の、歓迎のメッセージ＆エネルギーを感じました！^^

松の参道を歩いていくと、左手に見えてきたのが
因幡の素兎（いなばのしろうさぎ）で知られる“ご慈愛の御神像”です
大社内には、他に66羽の兎の石像があるとの事、あちこちで出迎えてくれて、癒されました^^
自身にとって、神話とは？神とは？のはじまりが（一番最初に出会った神話？）
傷付いた兎を助けた、心優しい“大国主命”だったかもしれません^^

美しい八上比売（やかみひめ）が選んだのも、だいこくさま（大国主命）でした^^

その向こうには手水舎があり、右手に見えるのが、**“ムスビの御神像”**です
2021年7月に発進したコンテンツ『氣田大社＆モーゼパーク』の中でも取り上げた
“黄金の光の玉”を前にして跪（ひざまず）く、大国主命の像です

2021年の夏に、能登一之宮“氣多大社”と
その本宮とされる、“能登生国玉比古神社”を訪れました
能登生国玉比古神社本殿（御祭神は大己貴命〈大国主命〉）へと向かって歩いていくと

本殿がそのまま、巨大な人の姿のようにみえてきて、その時浮かんだ映像が
ネットで見たことがある、両手を大きく広げた、この大国主の姿でした
調べてみると、大国主命の前には、**“黄金の光の玉”**があり、その玉とは何か？ですが
それは、**大国主自身の、“幸御魂（さきみたま）”と“奇御魂（くしみたま）”**でした
神道には、“一霊四魂”という考え方があり、人は四つの働きをもつ魂で構成されていて
大きくは、“荒御魂（あらみたま）”と“和御魂（にきみたま）”の二つに分けられると言われます

≪一霊四魂≫

一霊
- 荒御魂（あらみたま）…目標に向かって、勇ましく突き進む強大な力
- 和御魂（にきみたま）…物事を平和的に、調和的に成し遂げる力
  - 幸御魂（さきみたま）…愛、献身、優しさをもって、幸せへと導く力
  - 奇御魂（くしみたま）…奇跡（神の如き完全性、真の叡知）の力

大国主命は、共に国造りを進めてきた大切なパートナー“少彦名命”を失い
途方に暮れていた時に、海の向こう側から、黄金の光の玉＝“幸御魂”と“奇御魂”が現れ
縦と横、**“荒御魂”と“和御魂”の結び(統合)＝四魂のパワー全開！！**によって
“日本の国造り”という偉業を、成し遂げたといわれます
それは、大国主命の男性性の側面（荒御魂）と、女性性の側面（和御魂＝幸御魂、奇御魂）
陰と陽の統合・神化＝**“根源へのアセンション”！！**とも言えるのではないでしょうか？
新しい日本の創生＝“新たなる神話のはじまり”を見る思いがします^^

銅鳥居をくぐり、拝殿、本殿へと向かいました

拝　殿

八足門・本殿

八足門の前で出雲の大神様に、感謝と決意（地上神代）の祈りを捧げました^^

自身には、清々しい、神界の真白き光、“スサノオ”がイメージされます^^

本殿の更に向こう側には、“素鷲社（そがのやしろ）”と呼ばれる
“素戔嗚尊”を祀る摂社があるからでしょうか？

出雲大社（国土の神々）を、後方から、見守り支えている
雄々しいイメージの素戔嗚尊（日の本の御龍体“国常立太神”の分身）ですが
なんともこぢんまりとして、繊細な波動、そして“美”を感じます^^
新しい地球は、**“真・善・美全き ミロク世界”**
“真”と“善”が、明確に目に見える形となったものが“美”でもあり、
決して偽れないもの、ではないでしょうか？

素鵞社側からみた本殿です

統合された白い光から生まれる、色のある美しさ――
力であり、役割であり、様々な個性…
“色気”と浮かびました

♡こんにちは！ 可愛いうさぎさんたちにもご挨拶^^ 表情やしぐさがユニークです♡
出雲はおとぎの国だった？！

こちらは、日本一とされる神楽殿の**“大注連縄”**です

さすがの大迫力！落ちて来たらペシャンコ？！

この大注連縄が、自身にとっては、中今の出雲大社の象徴でもある気がしていて

大きく、締めくくる！！

新時代（地上神代、神人の世）へ向けての気迫を感じます

人の“DNA”のくくり直し、様々な二極のくくり直し（統合）でもあります！

“菊理姫”（くくりひめ）のお姿が。。。^^

境内を一巡し、昇殿参拝をさせていただきました！^^

拝殿で御祈祷を受けた後、八足門内へと入る事が許され、感激でした^^

本殿の前で地上セルフは、なんとなく真っすぐに向かえない、正面ではない？気がしたのですが。。。

（神職さんが、動き回る男の子に対して、「出口はそっちではなく、こっちですよ～」と、一生懸命伝えていた姿が印象的でした）

ご祈祷の間は、常に**自己の核心“ハートと魂”**に意識を集中していました

神前両脇に、“鏡と剣”が飾られていて、**“アマテラスとスサノオの宴”**と浮かびます

祝詞の最後に「**奇御魂、幸御魂、守給へ幸給へ**――」と繰り返される言霊が、大きく響き渡り

ムスビの御神像＝大国主命（背後のスサノオでもある）の強い祈りが、伝わってくるようでした

私に観えていたのは、燃え盛る赤い愛の炎に包まれた丸い鏡？（自己の魂？）

赤い炎がやがて、白の渦模様？に変わり、澄んだ鏡と、そのまわりに見える白い渦は。。。雲？！

そういえば、出雲大社へと向かうバスの中で、上空の雲（雨雲）にやたらと目がいき…

来る前に浮かんでいた和歌に出てくるのも、「八雲立つ―」で、雲です

極めつけは、**まさに今ここ！“出雲大社”**なのでした！！

ちなみにここ数日、自室の窓の外に大きなクモ（蜘蛛）が巣を張っていて（ちょっと気持ちが…（^^;）

窓の外は誰の所有物でもないので、払うに払えずにいたのでした（笑）　クモはどこへ行った？

おまけに撮っていた写真も、みれば、雲だらけ…（太陽を撮ろうとすると写る？！）

この雲は――― **“豊雲野大神”**？！

大国主命は素戔嗚尊（須佐之男命）、そして国常立大神（地球神）へと続いていますが

国常立大神に寄り添う妻のような存在が、**豊雲野大神**であると言われます^^

国常立大神が、万物を育み支える、永遠の大地ならば

豊雲野大神は、その大地に豊かな実りをもたらす“慈愛の雨”を降らす、雲です！

中今、根源の光に眩しく輝く“艮の金神”＝“国常立太神”復活の時であり

同時に、坤の金神＝“豊雲野太神”復活の時！でもあるのではないでしょうか？！^^

八雲立つ　出雲八重垣　妻ごみに　八重垣つくる　その八重垣を・・・

八は、「多くの」や「∞」を表す言葉であり、また**太陽を象徴する“数霊”**とも言われます

この歌は、素戔嗚尊が愛しい妻である奇稲田姫を想って詠んだ歌とされますが

八重垣＝幾重にも張り巡らされた結界であり、その中に大切に護られ、隠されていたのは

雲出づる地“出雲”に湧き立つ“八雲”＝“豊雲野太神”でもあるのでは？

今、新居の『その八重垣を』取り払い、溢れんばかりの陽の光と、清々しい風を贈りましょう！^^

出雲大社境内には、旧暦10月神無月（出雲では“神在月”と呼ばれます）に

全国各地から集まってくる神々の宿となる（東西の）十九社があり、10月10日（旧暦）に

西方 1km の所にある“稲佐の浜”で、神々をお迎えする**“神迎（かみむかえ）神事”**が行われるとの事です

明日はちょうど、（新暦ですが）10月10日なので、一足先に、浜へお迎えに行きました！（笑）

“日が沈む聖地出雲”のシンボルとして、日本遺産にも登録されていて

『記紀』の国譲り神話では、大国主命が高天原から派遣された武甕槌神と

国譲りの交渉をした場所でもあるとの事、日暮れに間に合うように、浜へと向かいました

この道であってるかな？誰も歩いていない道を進んでいくと、大きく視界が開け

わぁ～！^^　正面に海が見えてきました！

今はまだ明るいので大丈夫ですが、「行はよいよい、帰りはこわい――？」

浜までくると、人の姿が見え、ほっとしました

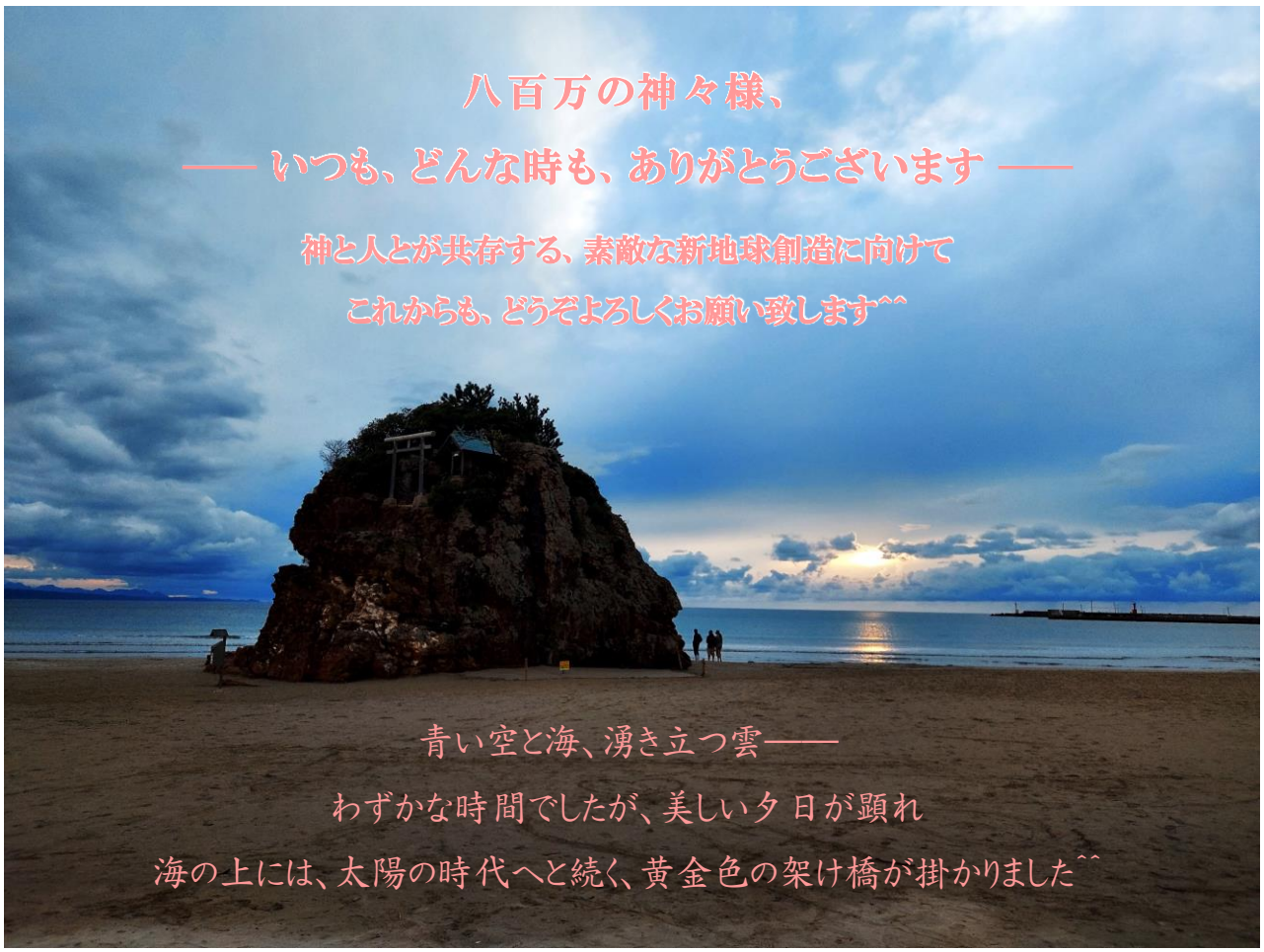
そして左手から、何やら黒い影のようなものが視界に飛びこんだ… と思ったら

やっぱり！？　弁天島の鳥居の上に、カラスさんがいます（笑）

（何か言ってる?ような気もしましたが、わかりましぇん）

残念ながら曇り空の為、美しいと言われる夕日は見えませんが

数日続いていた寒さもなく、心地よい、幸せなひと時を過ごすことができました^^



もう日が暮れたので、出雲大社へと帰る時間です――

人っ子一人いない、薄暗い道を進んでいくと

突然右手の陰？から何かが突進してきた?!? と、次の瞬間

足元に ドン！という衝撃が走り、爪で引っかかれた！？ような痛みを感じて

ビックリ仰天?! 心臓バクバク(*_*;

猫、それとも熊?! 恐ろしすぎて振り返る事もできず、その場を立ち去るのに必死でした

なんとなく、嫌な予感がしていました――

何故こんなことに…？ 私が改めるべきことは何だろう…？と、アレコレ考えていると

もしかして、襲われたのではなく、助けられたのかも？！と思えてきました

出雲の神迎神事において、神々を先導するのは**“龍蛇神”**と言われる事を思い出しました

その時の自身は、“龍蛇神”というより、“龍邪神”だったのでは？

そういえば、9月秋分の日、普段はあまり通らない白山比咩神社北参道側の手水舎のあたりで

本殿の方角へと向かっていく、二匹？の大きな“蛇”に出くわす？というリアルな夢をみていて

（やはり大蛇は）あまり気持ちのよいものではないので、少し気になっていました

また、今回衝撃を感じたのは、足元だけだったことから、地を這う“蛇”がイメージされます…

その時、自己の内なる“邪”が浮かび上がり、猫 or 熊？によって**祓(払)われた**？のかもしれません

（もしかして大難を小難に――、父が助けてくれたのかも？^^）

白山さんの鳥居の下に座っていた、**露払いの御役目**の猿田彦神は、それを予言していたのでは？

外に見る世界は、すべて内なるものの写しと言われます

自身には、地球における（輪廻転生の）長い歴史があり、それは、大宇宙史の一部でもあります

陰も陽も、地上セルフに見えているのは、その中のほんの小さな部分であり

いたずらに闇（邪）にフォーカスすれば、さらに闇が広がっていくだけなのではないでしょうか？

宇宙大の、美しく、壮大なタペストリーのワンピースとして、今地上で出来る事を全力でやる！

それしかありません^^

という事で（笑）、はじめての出雲、楽しかった～～！感謝です<(_ _)>

2023 旧暦10月神在月は、きっと素晴らしいことが起きる！！！

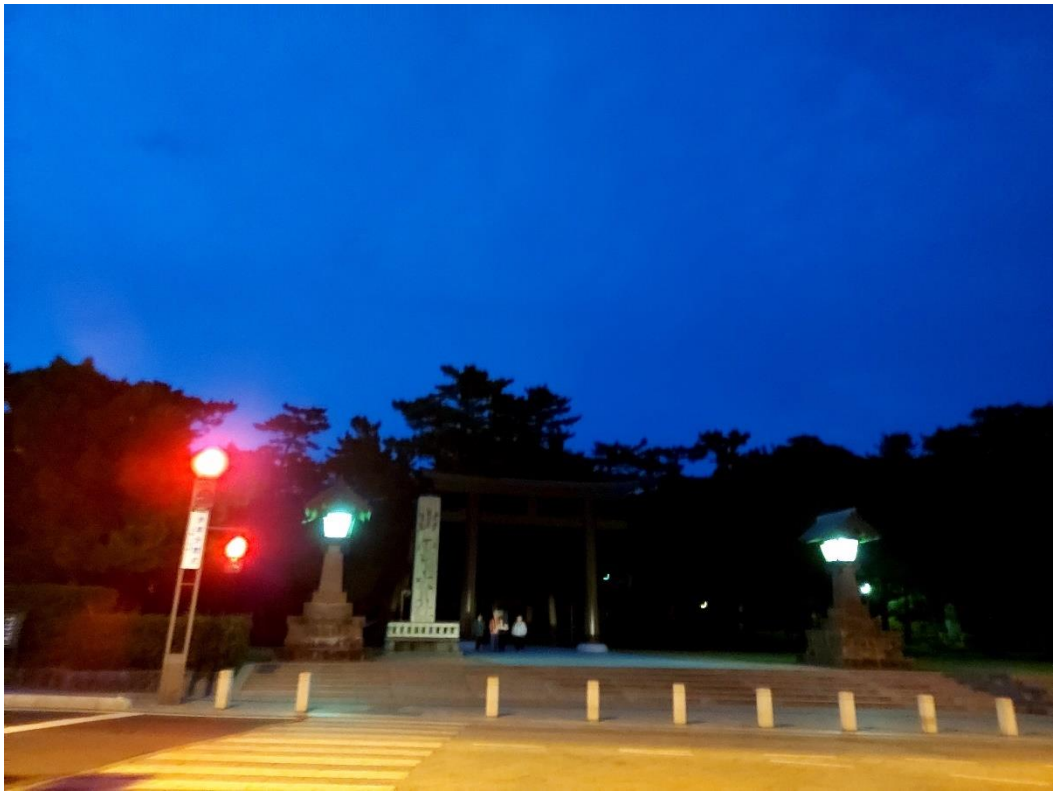
に違いありません^^v

2023.10.16　あらゆる全てに∞感謝　皇美・流美

《追記》

こちらは、稲佐の浜から出雲大社正門前へと帰ってきた時に撮った

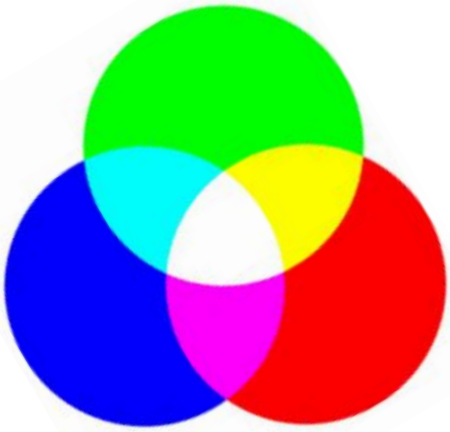
その日最後の写真です^^



なんだか色合いが、すごく印象的…と思ったのですが、そのままになっていました。。。

空の青を背景に、赤（信号機）と緑（灯篭）に見えるライトが点灯しています

青、赤、緑 ――といえば、“光の三原色”が連想されます^^



この三色によって、様々な光（色）を表現することができる（テレビやパソコン等）と言われ

すべてが重なった中心は**“白”＝“太陽”（光源）**でもあります^^

そしてもう一つ気になっていたのが

空港から出雲大社に到着して、正門をくぐり、歩いていくと見えてきた“松並木”です

出雲大社って、松なんだー？！と、不思議な感動（喜び）があり、何故に？でした

（後に地図で確認してみると、“松の参道”となっていました^^）

そこから浮かんできたのが、大本教の“**お筆先**”や、“**日月神事**”と呼ばれるもので

その中では、大変革の後に到来する理想世界、みろくの世のことを“**松の世**”と呼ぶそうです

まさに**松の世(ミロクの世)の到来！**を感じて、嬉しかったのかもしれません^^

大本教のお筆先には、“艮の金神”のお話が出てきます

王仁三郎は、艮の金神の正体を、古事記や日本書紀で国祖神とされる国之常立神（国常立尊）と審神した。
国祖神の治世は厳格を極めたため、不満を募らせた八百万の神々により、国常立尊は艮の方角（鬼門）に
封印されて「艮の金神」となり、妻神豊雲野尊は坤の方角にこもって「坤の金神」となったという。
（ウィキペディアより）

自身は、お筆先や日月神事を、キチンと読んだことがないので <(_ _)>

これは自分の考え（憶測）となりますが（いつも憶測だらけ？笑）

先ほどの光の三原色の中の、“赤”色が“国常立大神の御働き”で、厳（霊）の御魂

“青”色の部分が、“豊雲野大神の御働き”で、瑞（体）の御魂

“緑”色の部分が、“厳”と“瑞”とを生み出し、私達の宇宙を創造したとされる

神話において、“天之御中主大神”といわれる存在を表しているのではないでしょうか？

厳の赤は火（カ）、瑞の青は水（ミ）、その統合された姿が“カミ（神）”であり

緑（大自然）という感じです^^

地上セルフは父の四十九日の間、毎朝写真の前に座り

ロウソクに灯された“火”と、コップに入れた“水”を見ながら、父に対する感謝の気持ち

縦（火）と横（水）の統合＝御魂の更なる幸せ、神化・向上を祈りつづけてきました

無意識にやっていた事の意味が、明らかになった感じでもあります^^

そして、**“日 月”神事が、中今となった？！ものが“日 月 地”神事**ではないでしょうか？

これまでの世界は、日と月＝“火”と“水”の、二つの要素しかありませんでしたが

そこに【地】の働き(要素)が加わることで初めて、“日月地”の三位一体力の発現となり

理想世界、ミロクの世(松の世)が誕生するのではないでしょうか？

“地”とは（驚くべきことに）、**この地球(根源の皇の星)**であり、三原色の中心部

＝すべてが統合された“白”（＝万物創造の光、根源のフォトン）の部分――

それは、根源の太陽そのものである、**地上の私達＝“日戸”**でもあり

宇宙のあらゆる全てを地上セルフに統合した、根源の神人、皇人なのでは？！と^^

出雲大社から帰ったその足で、白山さんへご挨拶に行き、その時の写真がこちらです

なんか、いつもと雰囲気が違う？気がしていたのですが。。。その理由は――

赤＝根源（太陽）の“究極の愛”が、更にパワーアップした！！では

白山は神界（魂）の故郷――、黒と赤のコントラストから“スサノオ太神”?!と浮かびました^^

そして、2023年10月21日、再び白山さんを訪れました^^

何が起こった？　眩しすぎる？！

神門の向こう側にある、光輝く世界の美しさに、ドキドキします。。。

甘露の雨。。。　豊雲野太神の、歓喜の涙？！

宇宙のあらゆる全ての命の源

究極の愛の故郷(根源母神)から溢れ出す

フォトン(根源の愛と創造の光)の激流！！！

地上セルフが立っているのは

根源の皇御親と、その子供達（皇人）によって創造されていく、新しい地球

“皇の星地球”！！！

こちらは、白山さん境内の外れにひっそりと立つ“**河濯尊大権現堂**”

白山開山の祖“泰澄大師”自らが彫られた“姫神”が祀られているとされ

“瀬織津姫”（女性性の雛形）であるとも言われます^^

自身はこれまで、“神”というより、なんとなくお地蔵さん？のイメージが強かったのですが

お地蔵さんは釈迦より、弥勒が出現するまでの間、衆生を救済する役目を任されていたとの事

その日は、毎朝焚いていたお線香のような香りがたちこめていて（ここでは初めての事です）

何だろう？と思ったのですが、“父”の事が思い出され、この場に重なりました

（長い間、本当にありがとうございました <(_ _)>）

中今ここは、地球の中心にある 乙姫の宮“龍宮”、“シャンバラ” につながるポータル！！

天と地、神界と地上界をつなぐ鈴の緒を握りしめ

高らかに「開門！！！」を叫び、鈴の音を響き渡らせました！

ウルウルが押し寄せ、涙が溢れます―― 私の進む道には、“愛”だけがある！それしかイラナイ！

アセンション（進化・神化）は続くよ、どこまでも　2023.10.23追記版　流美（皇美・善美・ルミネス）